資　料

平成27年度における「岩手県文化芸術振興指針」実施効果の検証について

■主な施策方向１　日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信

評価項目の概況	○　インターネット利用を始めとするＩＣＴ利活用が全年代的に浸透している中、本県においても行政情報誌、生活情報誌に加え、ホームページ、ＳＮＳなどで日常的に文化芸術に触れ、情報収集が図られている。
課　題	○　多様な手段を活用した魅力ある文化芸術情報の発信
今後の方向性等	○　ホームページやＳＮＳ、各種情報誌等を活用した文化芸術情報の発信強化

No.	評価項目	参考指標等
1	岩手の文化芸術に関するホームページ、ＳＮＳ、動画サイトなどが増え、あわせてフォロワーやアクセス数が増えているか	○県ホームページ「いわての文化情報大事典」訪問者数 H26：357,025人　H27：360,839人 ○「いわての文化情報大事典」Facebookフォロワー数 H26年度末：33件　H27年度末：84件 ※H28.11現在：109件
2	行政広報誌・生活情報誌などで、岩手の文化芸術情報が広く提供されているか	○県及び市町村広報誌における文化芸術情報の掲載状況 県広報誌：伝統工芸の紹介、世界遺産登録関連記事 市町村広報誌：文化財・郷土料理紹介、文芸コーナー、人材バンク登録制度の周知、催事情報など
3	文化芸術の映像記録が計画的に行われ、広く県民が活用できる状態にあるか	○「いわての文化情報大事典」に掲載されている映像記録 郷土芸能、伝統工芸、祭り ○インターネットでの映像記録の掲載状況 地域文化遺産ポータルサイト、無形文化遺産アーカイブス、文化遺産オンライン、YouTubeなど
4	文化芸術が個別ではなく、他の文化芸術、景観などと一体的に情報提供されているか	○「いわての文化情報大事典」における掲載状況 伝統文化や生活文化、歴史文化、自然文化、文化財など本県の文化全般を網羅し、一体的に情報提供
5	平泉の文化遺産の構成資産などの文化財やそれらに込められた価値、理念について、市町村や関係団体等との連携及び協力により総合的に情報提供されているか	○県ホームページ「いわて平泉 世界遺産情報局」更新回数 H26：63回　H27：32回
6	生活文化分野における情報発信は、実践できるような紹介になっているか	○「いわての文化情報大事典」における掲載状況 生活文化情報紹介ページにおいて、郷土料理集のレシピ、民謡・わらべ唄等の音声データを掲載 ○その他 県農業普及技術課において「食の匠」認定料理を冊子やホームページで紹介
7	世界文化遺産登録、新規文化財指定件数などが増えているか	○世界文化遺産登録及び文化財指定等の件数 世界文化遺産登録：２件（H23、H27に各１件） 県文化財指定件数：380件（H27新規指定７件）
8	文化芸術関係施設などへの入込数などが増えているか	○県立施設への来館者数 県立博物館　H26：32,846人　H27：40,258人 県立美術館　H26：46,102人　H27：46,680人 県民会館　H26：339,395人　H27：360,694人

■主な施策方向２　文化芸術と県民との交流支援体制の整備

評価項目の概況	○　県文化芸術コーディネーターへの相談件数は、着実に増加している。 ○　芸術祭や催事などによる発表や鑑賞の機会が継続して確保されている。 ○　「いわて若者文化祭」や「いわてヤングフェスティバル」など、様々な分野で活動する若者が参加、発表するイベント等が実施されている。 ○　平成27年度から新たにアートマネジメント研修を開催している。
課　　題	○　県文化芸術コーディネーターの各圏域内への浸透が不十分 ○　若者が参加、発表するイベント等が県央圏域に集中 ○　各地域において文化芸術に精通しマネジメントできる人材の育成
今後の方向性等	○　県文化芸術コーディネーターの周知の徹底 ○　若者が参加、発表する場の県内各地への展開（例：県内各地で開催されるイベント等への「いわて若者文化祭」出演者の派遣など） ○　アートマネジメント研修の継続及び内容の充実

No.	評　価　項　目	参　考　指　標　等
1	各広域振興圏の県文化芸術コーディネーターの活動実績が増えているか	○県文化芸術コーディネーターへの相談件数 H26：272件　H27：280件 ※主な相談内容：活動の発表場所、活動団体の紹介依頼、イベント企画、助成金の相談など
2	文化芸術の催事数が増えているか	○県内各市公立文化施設における催事数 H26：1,182件　H27：1,280件 ○県立文化施設における催事数 県立博物館　H26：195件　H27：212件 県立美術館　H26：132件　H27：137件 ○「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」文化プログラム数 301事業
3	各地域の文化芸術活動への参加者数･文化芸術活動団体数は増えているか	○岩手芸術祭の来場者数 H26：26,626人　H27：26,380人 ○岩手県障がい者文化芸術祭の出展数及び来場者数 出展数　H26：287点　H27：354点 来場者数　H26：3,400人　H27：3,680人
4	各地域において､文化芸術を核とした地域振興体制ができているか	○県文化芸術コーディネーター委嘱団体 県央：ＮＰＯ法人いわてアートサポートセンター 県南：ＮＰＯ法人芸術工房 沿岸・県北（久慈）：いわて文化支援ネットワーク 県北（二戸）：二戸芸術文化協会 ※県北（久慈）については、H28からＮＰＯ法人やませデザイン会議に委嘱 ○県文化芸術コーディネーターへの相談件数（再掲） H26：272件　H27：280件
5	若者等が日頃培った文化芸術を発表する機会や活躍の場が増えているか	○若者が参加、発表する主なイベント いわて若者文化祭、いしがきMUSIC FESTIVAL、いわてヤングフェスティバル、KESEN ROCK FESTIVAL、いわてアートプロジェクトなど
6	各地域において､アートマネージメント力向上に向けた取組（研修会の開催やアートマネジャー育成事業など）が行われているか	○アートマネジメント研修開催状況 開催日：9/25 出席者数：43名 内容：講演、助成金の説明、トークセッション

■主な施策方向３　豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援

評価項目の概況	○　次代を担う高校生などの文化活動や新進・若手芸術家の活動を支援することにより、人材が育成されている。 ○　東日本大震災津波により被災した活動団体に対する支援が着実に進み、活動再開につながっている。 ○　平泉などの世界遺産の価値・理念や適切な保存管理に対する理解や関心を高めることで、若い世代の郷土に対する誇りや愛着を醸成している。
課　　題	○　新進・若手芸術家の育成に係る支援の継続実施 ○　東日本大震災津波により活動が困難になっている文化芸術団体に対する支援の継続実施 ○　平泉などの世界遺産の価値・理念の次世代への継承
今後の方向性等	○　次世代を担う若手の更なる育成支援策の検討 ○　被災した文化芸術団体に対する活動支援策の検討 ○　将来にわたり平泉などの世界遺産を確実に守り伝えるための環境整備

No.	評　価　項　目	参　考　指　標　等
1	公共的支援資金の活用が増えているか	○県文化振興基金の助成件数 H26：41件 19,231千円　H27：30件 14,829千円
2	学校教育における文化芸術鑑賞の機会が増えているか	○文化庁及び青少年文化センター等の芸術事業実施学校数 芸術家の派遣事業　H26：２校　H27：２校 巡回事業　H26：21校　H27：14校 青少年劇場本公演　H26：153校　H27：135校 〃　小公演　H26：４校　H27：３校 芸術家の派遣事業（震災分）　H26：126件　H27：151件（※校外も含む）
3	新進・若手芸術家が育ち、県内外で新たに活動している者が現れているか	○県高等学校文化連盟セミナーサポート開催部門数 H26：17部門　H27：17部門 ○文化振興基金助成事業「いわての芸術家等派遣事業（旧新進・若手芸術家等派遣事業）」の派遣学校数 H26：10校　H27：９校
4	地理的条件などによる不利益を解消する事業が展開され、鑑賞者数が増えているか	○「青少年劇場」のうち、へき地指定３級以上７校における鑑賞者数 青少年劇場本公演　H26：７校 76人　H27：７校 76人 〃　小公演　H26：３校 31名　H27：１校 ８人
5	学校教育において地域と連携した伝統文化への取組が強化されるとともに、活性化しているか	○伝統芸能の取組を実施している学校割合（隔年調査） 小学校　H24：207校　H26：235校（全体の69.3%） 中学校　H24：83校　H26：64校（全体の38.1%）
6	地域の伝承活動を発表する機会が増えているか	○県民俗芸能フェスティバル出演団体数及び鑑賞者数 H26：６団体 750人　H27：６団体 1,000人 ※県民俗芸能団体協議会からは、震災以降、沿岸被災地の伝統芸能団体が県内外で発表する機会が増えているとの声
7	平泉の文化遺産に対する県民等の理解と関心が深まり、フォーラムなどの参加者数が増えているか	○各種県民向けのイベントの参加者数 平泉文化フォーラム　H26：450人　H27：450人 平泉授業の受講者数　H26：1,120人　H27：1,144人 平泉世界遺産の日シンポジウム　H26：　350人　H27：200人
8	沿岸被災地において、活動を再開している文化芸術団体や活動者は増えているか	○県文化振興基金被災地備品整備事業実施団体数 H26：80団体　H27：87団体（累計） ○県郷土芸能復興支援事業実施団体数 H26：16団体　H27：20団体（累計）
9	学校教育や地域活動の中で、地域の景観への愛着や誇りを育むための取組・活動が行われているか	○景観学習実施学校数 H26：16校　H27：22校

■主な施策方向４　文化芸術活動の担い手を支援するネットワークの形成

評価項目の概況	○　平成27年度から文化芸術活動支援ネットワーク会議を各圏域で開催。文化芸術団体に加え、観光・教育など文化芸術団体以外の団体も参加し、情報共有が図られている。
課　　題	○　文化芸術活動支援ネットワーク会議に参加する団体が相互に連携・協力し合う関係の構築
今後の方向性等	○　県文化芸術コーディネーターを中心とした文化芸術活動支援ネットワーク運営の充実及び同コーディネーターの活動支援

No.	評　価　項　目	参　考　指　標　等
1	文化芸術活動に対する支援ネットワークが各地域でできているか	○文化芸術活動支援ネットワーク会議の開催回数 H27：県内６箇所で各２回開催
2	各地域の文化芸術活動支援ネットワークに参画している団体数は増えているか	○文化芸術活動支援ネットワーク会議の参加者数及び参加団体数 参加者数（延べ）　H27：131名 参加団体数　H27：84団体
3	文化芸術団体と他の分野の団体による協働が行われているか	○観光・産業イベント等における文化芸術団体の活用状況 北上市：さくらまつり、浮牛城まつり、福祉施設イベント 盛岡市：まるごと芸術体験フェスタin県民会館 など
4	文化芸術施設相互の連絡調整が強化され、より効果的な施設活用ができているか	○文化芸術施設の連携状況 さくらホール（北上市）、前沢ふれあいセンター（奥州市）、大船渡市文化会館が連携し、県文化振興基金及び地域創造助成金を活用した「いわての演奏家とつくる地域交流プログラム市町村連携事業」を実施
5	ＮＰＯ法人等、文化芸術の支援を行う団体が増えているか	○県内に主たる事務所を置く「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」を行うＮＰＯ法人数及びその活動状況 H26：233団体　H27：241団体
6	文化芸術活動への企業メセナが増えているか	○企業メセナによる文化芸術団体等を対象とした助成事業等 アサヒグループコミュニティ助成事業（被災地の郷土芸能活動支援）、ウイーンフィル＆サントリー音楽復興基金（クラシックコンサートの開催）、日清製粉グループ（手芸粘土の支援）など ○文化イベントへの協賛 NEXCO東日本（中尊寺レクイエム・コンサート）、マース（演歌・民謡の祭典）
7	文化芸術活動への理解が深まり、雇用者等への勤務上の配慮が増えているか	○企業・事業所行動調査（県政策地域部が隔年実施）における「従業者が行う文化芸術活動への支援」の状況 H24：16.7％　H26：13.8％ ※調査対象事業所数1000件
8	行政機関、住民、団体等が協働し、地域住民主体の景観形成・まちづくり活動が行われているか	○景観づくりに取り組む地区数 H26：35件　H27：37件